

# シナイ通信

## 第43号

令和5年12月31日

NPO法人 シナイモツゴ郷の会



TEL 080-1832-8437

MAIL [kiyotaka.totosh@gmail.com](mailto:kiyotaka.totosh@gmail.com)

WEB <https://www.shinaimotsugo.com>

〒989-4102 宮城県大崎市鹿島台木間塚字

小谷地 504-1 鹿島台公民館内



### 目次

ページ

表紙 沈木に産み付けられた卵を守るシナイモツゴ雄 (撮影: 秦 康之 2020/4/30 大崎市鹿島台)	1
2023 年下期の活動概略 1 新たな里山ため池生態系復元方式を提案 2 現地研修会を強化: 保全ため池で捕獲ツールによる防除・復元技術を実地研修	高橋 清孝 2~4
2023 年度水辺の自然再生共同シンポジウム 1 シンポジウム講演と総合討論 2 里山ため池でエキスカレーション	シンポジウム実行委員会 5~6
「SUZURI」を利用した商品販売について	君島裕介・君島奈々恵 7
第2回アメリカザリガニ試食会-塩水飼育ザリガニお披露目	根元 信一 8
他地域ザリガニ防除支援	高橋 清孝 9
幟(のぼり)、御披露目!文化祭に出展	石井 洋子 10
「おおさき環境フェア2022」に出展しました	君島裕介 11~12
水辺の仲間たちーその27ー 夏眠?避暑?する水生昆虫たち シナイモツゴ BCC 通信の紹介	長谷川 政智 13~14 事務局 15

## ブラックバスとザリガニ退治で里山水辺の自然がよみがえった

### 里山ため池(全国 15 万個)豊かな自然を復元する新方式を提案

#### 2023 年下期の活動(7~12 月)

#### 1 新たな里山ため池生態系復元方式を提案

当会は 2014 年からアメリカザリガニ防除と本格的に取り組み、簡単に大量捕獲が可能な捕獲ツールを開発し、里山ため池で効率的・効果的な防除を続けています。これによりアメリカザリガニの低密度化を実現し、そ

た。旧品井沼方式として全国的に注目されつつあります。

里山などの農業ため池は全国に 15 万個もあります。ここには、外来種の侵入、農薬被害、開発等により追いやられ絶滅寸前の在来

#### これまでの成果と今後の取り組み

#### NPO法人 シナイモツゴ郷の会



#### ブラックバス防除:地域ぐるみで2002年~継続中



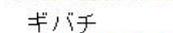
シナイモツゴ



ゼニタナゴ



ニホンウナギ



ギバチ



ミナミメダカ

#### 絶滅危惧種を復元保全:里山ため池と周辺小川



連続捕獲装置  
アメリカザリガニ防除  
:地域ぐるみで2014年~継続中



人工水草



小型専用  
トラップ



トンボ類ヤゴが急増



よみがえった生き物たち

#### 在来の貝類、魚類、水生昆虫を復元:里山ため池



の後も低密度管理を維持することにより、多くの生き物が復元することを実証してきました。2002 年から実施しているブラックバス対策と合わせて実施することにより、里山水辺の自然再生が可能になりました(下図)。これらの成果は 11 月 25 日開催の「水辺の自然再生共同シンポジウム」、12 月 5 日経団連主催の「企業と NGO の交流会」などで報告しまし

種が生息し、最後の楽園として貴重な役割を果たしてきました。しかし、現在、この多くにブラックバスやアメリカザリガニが生息し、在来種は極めて深刻な状態にあります。

旧品井沼方式は、ブラックバスとアメリカザリガニを簡単技術で退治することで、豊かな自然を復元することが可能です。しかも、当会開発の簡易な捕獲ツールを使用すること

により省力化が可能になりました。この方式を導入することにより、全国で多くの保護区を設定することが可能になるので、30by30 国家戦略に貢献可能できます。

これらの大きな成果はシナイモツゴ里親制度、シナイモツゴ郷の米認証制度、大崎生きものクラブによる生物モニタリング調査等地域ぐるみの活動に支えられてきました。このような地域ぐるみの活動は、今後の長期継続に不可欠であり、担い手の主体として引き続き活躍いただければと思います。

2024 年は、これらの取り組みと成果を広範

に発信して、全国的な取り組みへの拡大を図りたいと考えています。現地研修会、生き物観察会、試食会等のイベント開催、URL や SNS による発信、水辺の自然再生共同シンポジウム開催による全国への情報発信、さらには新刊本、「水の自然再生シリーズ第 4 冊目」の刊行を目指して準備中です。

活動の長期継続に必要な活動資金の支援を受けやすくするため、自然共生サイト登録を環境省へ申請中です。2 月下旬に認定結果が公表されます。

## 2 現地研修会を強化: 保全ため池で捕獲ツールによる防除・復元技術を実地研修

小・中・高等学校、大学の学生や保全活動担当者を対象に現地研修会を開催し、アメリカザリガニとブラックバスによる被害状況を解説しました。参加者は、これらを防除することにより多くの生き物を復元できることを、実際の捕獲作業や復元生物を観察しながら学びました。

### 1) 小川の生き物観察会

7 月 30 日 おおさき生き物クラブ観察会 大崎市の小・中学生 計 50 名が参加

保全ため池を水源とする小川で生き物観察会を開催（写真①）、毎年実施し採集データをモニタリング資料として集積しています。今年は熱中症対策のため、採集魚類を鹿島台公民館へ運び室内で水槽観察（写真②）、アメリカザリガニ防除でよみがえる生き物たちについて受講しました（写真③）。塩水飼育ザリガニも試食、試食の感想：初めて食べたが、とても美味しい、もっと食べたい。午後は高学年の会員向け専門コースで、アメリカザリガニ防除中の保全ため池で、復元した生き物を観察しました（写真④）。



おおさき生き物クラブ小川の生き物観察会 7月30日  
①50名が参加、防除ため池を水源とする小川で生き物調査  
②公民館で採集した魚を水槽観察 ③採集した魚類等に関する講話  
④昼食後、高学年生徒はため池で復元した生き物を観察

### 2) 保全ため池で防除技術研修会を開催

①8 月 28 日 防除ため池で鶴岡市ほとりあ職員 4 名

ラムサール登録の戸沢湿地におけるアメリカザリガニ防除強化を検討するため来訪し、アメリカザリガニ防除ため池で実地研修しました。連続捕獲装置の取り扱いについて、防除ため池で現物を使い説明を受けました（右写真）。



②9月1日 大崎市古川黎明中 25名

小川と防除ため池で実地研修（写真①、②）、学童農園でため池群の生態系と保全の必要性について受講しました（写真③）。昼食時には塩水飼育ザリガニを試食、大好評でした（写真④）。



古川黎明中 現地研修会 9月1日

- ①25名が参加、防除ため池を水源とする小川で生き物調査
- ②アメリカザリガニ防除ため池で復元した生き物を観察
- ③旧品井沼周辺ため池群生態系について講和
- ④昼食時、塩水飼育ザリガニボイルを提供。最初はこごわ食べたが、大好評。今まで食べたエビ類の中で一番おいしかったという生徒もいた。

③ 9月5日・12日 武蔵野大学計 80名

全学部から参加した1年生80名が2グループに分かれて、9月5日と12日に現地研修会へ参加しました。保全ため池で、ため池の重要性や外来種防除の必要性を学びました（写真①～③）。初回は雷雨に見舞われ、途中で学童農園へ避難し、スライドによる講話になりました。塩水飼育ザリガニボイルの試食は、全員が初体験とのことで、とても好評でした（写真④）。



武蔵野大学 現地研修会 9月5日、12日

- ①計80名が参加、防除ため池で生息魚類水槽展示、捕獲ツール実物を使って、ため池の重要性と外来種防除の必要性を講話
- ②設置中の連続捕獲装置を引き上げ捕獲作業を見学
- ③捕獲したザリガニや人工水草に付着した生き物を観察
- ④塩水飼育ザリガニボイルを試食、好評。

④ 9月26日に宮城県多賀城高校 42名が参加

公民館で旧品井沼周辺ため池群の重要性と保全の取り組みを受講（理事長が講話、写真①）、保全ため池へ移動しアメリカザリガニ連続捕獲装置の引き揚げ作業を見学（写真②）、捕獲ザリガニを観察（写真③）、人工水草に付着するトンボ類ヤゴなど水生生物を観察しながら（写真④）、保全ため池でさまざまな生き物が復元しつつある状況を聞きました。



宮城県多賀城高校 現地研修会 9月26日

- ①計42名が参加、鹿島台公民館で旧品井沼周辺ため池群自然再生の取り組みを講話
- ②設置中の連続捕獲装置を引き上げ捕獲作業を見学
- ③捕獲したアメリカザリガニを観察
- ④人工水草に付着した生き物を観察し、防除ため池の生物多様性復元状況を説明

# 2023 年度水辺の自然再生共同シンポジウム

## 4 年ぶり会場開催、里山ため池でエキスカーション

水辺の自然再生共同シンポジウム実行委員会

テーマ	激変する水辺の原風景 -豊かな自然を次世代へ アメリカザリガニの条件付き特定外来種指定と持続可能な防除活動
期 日	2023 年 11 月 25 日 (土) 講演と総合討論 11 月 26 日 (日) 現地研修会 (大崎市鹿島台里山のため池)
会 場	大崎市新庁舎 301 会議室
主 催	水辺の自然再生共同シンポジウム実行委員会 (企画責任団体: NPO 法人シナイモツゴ郷の会、共催団体: 大崎市、旧品井沼周辺ため池群里山未来協議会、シナイモツゴ郷の米づくり手の会、全国ブラックバス防除市民ネットワーク)
後 援	大崎市教育委員会、JA 新みやぎ、TOYO TIRE グループ環境保護基金

### 1 シンポジウム講演と総合討論

#### 趣旨説明

11 月 25 日 10:00~17:00 に大崎市役所会議室などで開催しました。開催にあたり、大崎市長から全国からの参加者への謝意と大崎市の取り組み紹介などをしていただきました。続いて、高橋委員長が次のように趣旨説明しました。アメリカザリガニ防除活動を継続しているため池では右写真のように様々な生き物がよみがえっており、この方式を全国 15 万個のため池のほんの一部で実施することができれば、さらに多くの生き物を復元できます。各地の活動を支援するため、最新知見の情報提供と積極的な意見交換の場にしたいと考えます。



里山ため池でアメリカザリガニ退治後よみがえった生き物たち

- ①二枚貝(タガイ) ②ゼニタナゴ ③シナイモツゴ ④アカガエル  
⑤ヌカエビ ⑥エグリトビケラ ⑦トンボ類ヤゴ ⑧ミヤケミズムシ

#### 講演とポスターセッション (次ページ写真集①~⑥)

11 月 25 日 10:00~17:00 に開催しました。世界農業遺産「大崎耕土」の一翼を担う旧品井沼周辺ため池群等貴重な自然を保全するため、主催者が当地の自然保護活動の成果を報告、第一線で活躍中の講師が全国の取り組み事例を紹介、今後の保全活動について議論しました。事前 PR により一般市民の参加を促し、展示コーナーを設けて保全活動の写真や実物を使って、取り組みや成果を分かりやすく説明し理解を深めてもらいました。

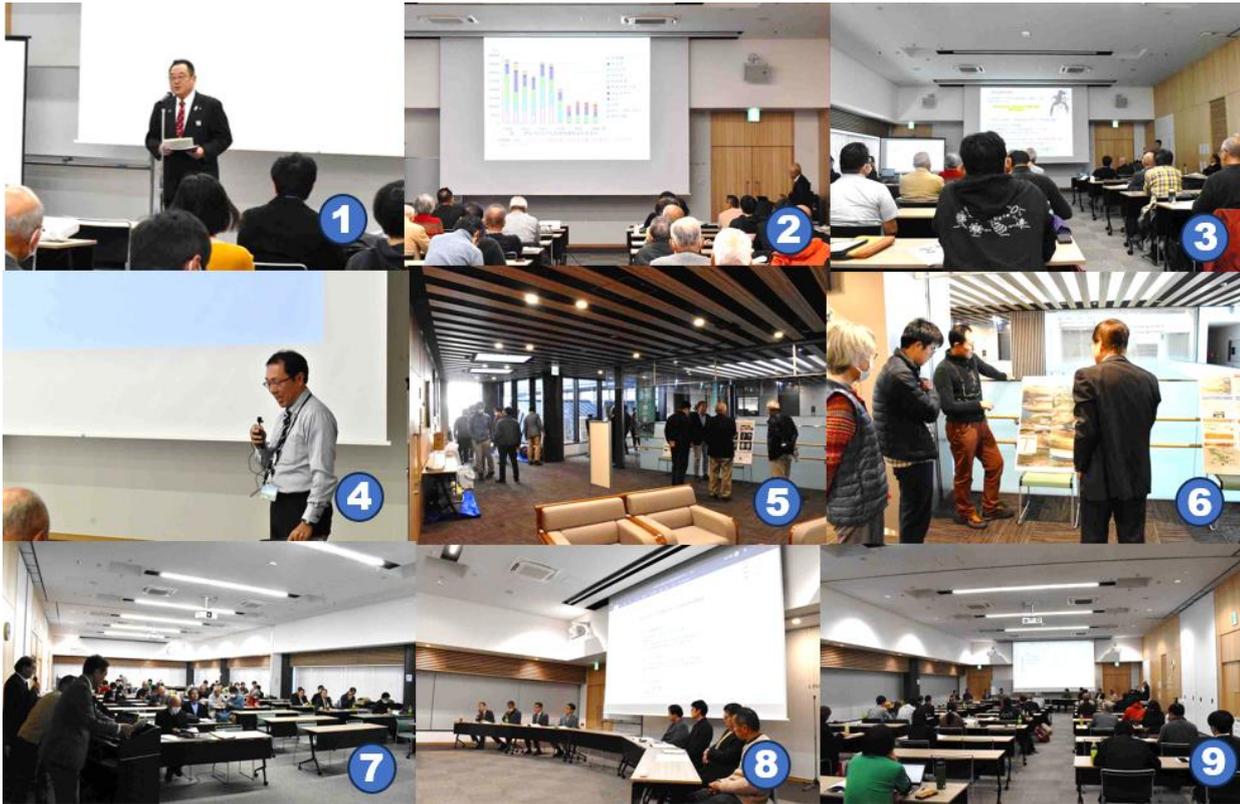
#### 総合討論 (写真集⑦~⑨)

全ての講演を終了した後講師 10 名が登壇し、会場参加者と共に意見交換しました。会場から明治初期の田園原風景はとても素晴らしいが、現実的な復元目標としてどこまでさかのぼれるだろうかという質問が出されました。基盤整備に関わった事のある講師から、豊かな自然を維持した整備計画について話し合ったことがあるものの、対象となる農業者からは作業負担が増加することから必ずしも賛意を得ることができない状態にあることが紹介されました。

アメリカザリガニ対策については、誘引餌やトラップなど捕獲技術に関する質疑応答が多くあり、防除活動への関心の高さが感じられました。アメリカザリガニ防除について、西原氏から魚食性魚類などによる生物利用の導入について提案があり、座長がその問題点について整理し、今後の方向性について議論しました。他の講師から、生物利用は想定外の負の影響を及ぼす恐れがあるので慎重にすべきとの意見や、魚類学会の放流ガイドラインを遵守すべきなどの意見が出されました。アメリカザリガニの生態系に及ぼす影響は極めて深刻であり、魚類や水生昆虫などの絶滅危惧種の保全においては急務であることから、継続して意見交換することになりました。

各講演・ポスターセッションの講演要旨と総合討論議事録を当会 URL に掲載しましたので、参照してください (シナイモツゴ郷の会 URL [水辺の自然再生 案内 \(shinaimotsgo.com\)](http://shinaimotsgo.com))。

## シンポジウム写真集①



### 写真の説明

1 シンポジウム講演、ポスターセッション、総合討論 2023年1月25日 10:00～17:00

①伊藤市長あいさつ ②第一部基調講演 ③第三部基調講演

④ポスターセッション講師のショートスピーチ ⑤ポスターセッション会場全景 ⑥ポスター説明

⑦会場参加者 ⑧総合討論登壇者 ⑨総合討論と参加者

## 2 現地研修会（エキスカーション）（写真集⑩～⑫）

11月26日に全国から参集したシンポジウム参加者を招待し、大崎市鹿島台の保全ため池でアメリカザリガニ防除活動について実物を使って紹介しました。旧品井沼由来のシナイモツゴとゼニタナゴが生息する大崎市里山のため池で、住民により100年以上にわたり受け継がれ、今も守り続けられている生物多様性の現況と保全技術を実地研修しました。特に連続捕獲装置と人工水草の操作方法や捕獲の効果について活発な質疑応答がありました。参加者は20名。

### シンポジウム写真集②



2 エクスカーション（保全ため池現地研修会） 2023年1月26日 9:30～12:00

⑩連続捕獲装置の捕獲技術講習 ⑪連続捕獲装置漁獲物の見学 ⑫人工水草の捕獲技術

# 「SUZURI」を利用した商品販売について

君島裕介・君島奈々恵

当会の活動資金獲得に向けた試行、活動の普及啓発を目的として、グッズ販売委託サービス「SUZURI」を利用して商品販売を開始しました。

「SUZURI」は、画像ファイルをアップロードするだけでオリジナルグッズを作成でき、注文が入るたびに受注生産・販売するサービスであるため、比較的簡単に・在庫リスクを抱えることなくオリジナル商品を販売することができるという利点があります。しかし、受注生産であるが故に商品単価がやや割高になる、納期がやや長くなるといった課題もあります。また、ポスター（図1）に記載のQRコードを読み取り、インターネット経由で購入手続きをする必要があるため、パソコンやスマホが苦手な方にはやや敷居が高いというのも難点の一つであると感じています。

SUZURIにて  
NPO法人  
シナイモツゴ郷の会  
グッズ販売中!

グッズ販売での収益の一部は  
「NPO法人シナイモツゴ郷の会」  
の活動費として活用させていただきます

**購入方法**  
右にあるQRコードを読み取ると、SUZURIのシナイモツゴ郷の会のページへアクセスできます  
購入したい商品をカートに入れ購入手続きを行ってください

今度も新しいグッズ、出まらねえ

商品名	価格
SSCロゴ 魚バッチ 魚バッチ	1,342円
SSCロゴ ステッカー ステッカー	1,062円
シナイモツゴサポーター サポーター	1,062円
シナイモツゴサポーター サポーター	1,062円
SSCロゴ グラス グラス	2,750円
シナイモツゴサポーター サポーター	3,542円
シナイモツゴサポーター サポーター	3,542円
SSCロゴ マグカップ マグカップ	2,354円
シナイモツゴサポーター マグカップ	2,354円
SSCロゴ トートバッグ トートバッグ	3,190円
SSCロゴ ランチトートバッグ ランチトートバッグ	2,530円
SSCロゴ エコバッグ エコバッグ	3,113円
シナイモツゴサポーター トライトシャツ	4,275円
シナイモツゴサポーター スタンダードTシャツ	3,366円
シナイモツゴサポーター トライトシャツ	4,275円
シナイモツゴサポーター スタンダードTシャツ	3,366円
SSCロゴ スタンダードTシャツ スタンダードTシャツ	3,366円

図1. 商品販売のPRのためのポスター（君島奈々恵作成）

QRコードを掲示すればどこでも販売を行えるということで、今年秋以降のシンポジウム等の催しで、商品販売をPRするポスターの掲示を何回か行いました。

まだ始まったばかりの取り組みなので、その効果についてはまだ見えてきませんが、シナイモツゴやゼニタナゴ等といった貴重な生物を、より身近に感じ・知ってもらうきっかけになり、いずれはその生息地を守る活動等を行う資金源とすることを目標として、取り組んでみたいと考えています。

（参考）商品販売 URL [https://suzuri.jp/SSC\\_Kashimadai/home](https://suzuri.jp/SSC_Kashimadai/home)

## 第2回アメリカザリガニ試食会-塩水飼育ザリガニお披露目

浅野 功

アメリカザリガニ有効活用の一環としてザリガニ料理の官能試験を10月8日に大崎市鹿島台公民館で実施しました。シナイモツゴ郷の会が塩水飼育ザリガニのポイル、南郷高校がビスクスープと唐揚げ、四川料理聚鮮楼（仙台市泉区中央）が中華料理を提供、内外から約50名が参加しました。

高橋理事長が趣旨説明、東北生活文化大学黒川准教授が試験内容を説明しました。外部参加者24名が参加、塩水と淡水で4日間飼育ザリガニを各2尾試食し、両者の旨味を判定し、回答用紙に試験結果を記入しました。この結果、71%の人が塩水飼育ザリガニは淡水飼育に比べ美味しかったと回答しました。

試食後の意見交換では、レストラン経営者などから多くの発言がありました。

- ・臭みが感じられず、味もおおむね良好で、品質は期待以上に良かった
- ・試食の結果、小型ザリガニの利用も可能である。
- ・現在、限定店舗への無償提供とのことだが、有償にして安定供給して欲しい。
- ・季節限定の販売も可。
- ・レストランは自然保護への協力という観点から、利用しやすいと思われる。

担当者はこれらの感想を聞き、さらなる品質向上をめざすと共に、PRを強化したいと語っていました。



試食会取材記事  
大崎タイムス  
2023年10月17日



試食会予告記事  
河北新報  
2023年10月6日

連続捕獲装置の実証実験を大阪府八尾市のニッポンバラタナゴ池と北海道洞爺湖で地元団体と連携して実施しました。また、今年度から農水省鳥獣対策室が全国6か所（福岡県、山口県、富山県、滋賀県、愛知県、静岡県）で当会開発の連続捕獲装置と人工水草等を使用してアメリカザリガニ防除と生態系復元の実証実験を開始しました。本事業の外来種対策有識者委員会に高橋理事長が学識経験者として参加しアメリカザリガニ防除について助言しています。

## i) 大阪府ニッポンバラタナゴ生息池（連携団体：大阪経法大学 ECO〜る∞KEIHO）

連続駆除装置を用い、2019年5月から2023年10月まで、気温の上昇する7～9月は月2回、それ以外は月1回実施しました。連続捕獲装置で捕獲を継続し2020年には、各月の合計捕獲数を5尾以下、平均捕獲数

（CPUE）を1尾/台以下に抑制することができました。2022～2023年に各月に計20～40尾が捕獲されましたが、平均捕獲数は1尾/台以下を維持することができました。この結果、写真で示すように2020

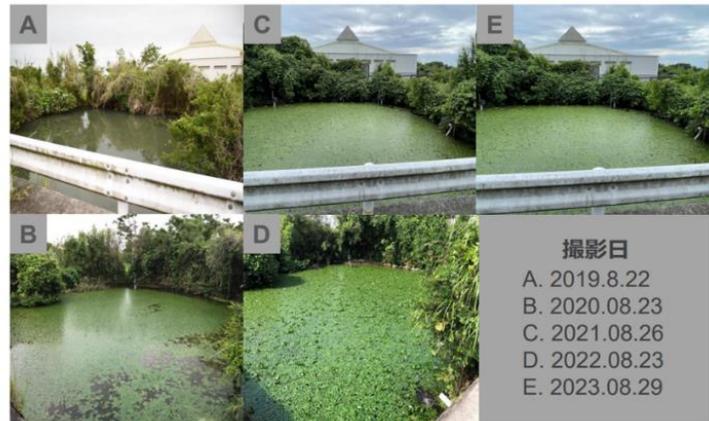


図2 植生分布状況写真（八尾市ニッポンバラタナゴ生息池、2019～2023年）

年から2023年の4年間ヒシ・エビモなど水草が繁茂するようになりました。特に、2022～2023年の捕獲試験の結果から、連続捕獲装置の平均捕獲数（CPUE）が1尾/台以下であれば、アメリカザリガニが生息していてもヒシとエビモは生育できる可能性が示唆され、今後の捕獲目標として重要な結果が得られました。

## ii) 北海道洞爺湖、ウチダザリガニ実証実験（連携団体：UW クリーンレーク洞爺湖）

洞爺湖沖合の3か所に連続捕獲装置を7月に計26台設置しました（写真①、②、④）。週1回ボートで回収（写真③）、1台で100尾を超える捕獲もありました（写真⑥）。沿岸部の浅所では陸上から従来漁具のアナゴカゴを設置し、毎日回収しています。



洞爺湖における連続捕獲装置によるウチダザリガニ捕獲実証実験

①捕獲地点図、連続捕獲装置26個設置 ②設置作業7月 ③回収作業7月  
④設置状況水中写真8月 ⑤入網状況8月 ⑥回収したウチダザリガニ9月

12月まで捕獲を継続します。連続捕獲装置により、沖合の広大な生息場で効率的な捕獲が可能になりました。

## 幟(のぼり)、御披露目！文化祭に出展 R5.11.3

石井 洋子(シナイモツゴ郷の会)

鹿島台文化祭に出展し続ける。これはなかなか大したことである。文化祭は、我々の活動の一端と、身近な自然を皆様に体感して頂く場として欠かせない。出展団体が減る中、当会は今年も玄関から入ってすぐという一等地を得、異次元の迫力ある展示を行うことが出来た。

では早速紹介しよう。入口からのぞくと、真正面には、名物アメリカザリガニの大容器(写真①)。手でさわってOKなので、毎年子どもたちに人気のコーナーである。6月によりやく特定外来生物に指定されて、展示の意義も新たに、説明にも力が入るというものである(写真②)。

次いで視線を横に振ると、ずらりと並ぶ大小の水槽が目に入る。ゼニタナゴ、シナイモツゴはもちろん鹿島台周辺の水辺に棲む川魚(かわじゃっこ)が観察できる(写真③)。淡水エビの仲間や、貝、ヤゴ、なぜかカムルチーもいる(写真④)。ギバチがいなかったのが少々残念だ。あの愛らしい仕草に癒しを感じるのは私だけであろうか。

ところで水槽には、生き物の名前を貼るという作業が必須である。今までは養生テープにマジックで手描きという、手作り感あふれるものであったが、今回、半恒久的に使えるラベルが作成された。展示が想定される生物種をピックアップし、その種名をプリンターに出力後、ラミネート加工を施す。当会若手会員の労作である。(ラミ掛けをしたのは私だ)



もうひとつ特筆すべきは、会の幟(のぼり旗)ができたことだ。

会場入り口にどーんと立てられたそれは、濃いグリーンの地に、白抜きのシナイモツゴ郷の会の文字。裾には黒々としたトレードマークの雄の横顔。どこからどう見ても、シナイモツゴ郷の会の幟以外の何者でもない(写真⑤)。こちらもまた当会若手会員の労作である。天晴である。

ともあれ、他にはアメリカザリガニ大量捕獲装置の現物を展示し、DVD上映コーナーを設けるなど、一日だけの展示であったが、貴重な発信の場になったと思う。それにつけても、新しい風は必要だ。来たれ若手会員。

## 「おおさき環境フェア2023」に出展しました

君島 裕介(シナイモツゴ郷の会)

令和5年11月18日、「おおさき環境フェア2023」が鹿島台の鎌田記念ホールにて開催されました。

沢山のブースが出店したフリーマーケットや環境に関わる自治体・団体の展示など、見どころが豊富にあり、当日は多くの来場者の姿がありました。

郷の会としては恒例行事の環境フェア出展ですが、私は今回が初めての参加でした。

11月3日に行われた「鹿島台文化祭」から多くの展示や生物を引き継ぐかたちで、当日の郷の会ブースの展示を設営しました。



図1 当会の展示ブース

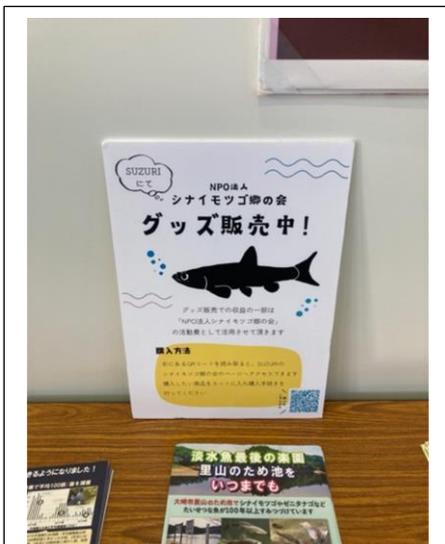


図2 商品販売のPRパネル



図3 好評だった水槽展示

### ・のぼり・商品販売のPRパネル

「鹿島台文化祭」で初披露となったのぼりを掲出しました(図1の左端の緑ののぼり)。会の名前と婚姻色のシナイモツゴ、「SSC」の文字が入ったのぼりは遠くからも視認性が良く、好評でした。

また、商品販売のPRパネルを掲出しました(図2)。新しい試みを実装することができた

ので、今後はより効果的に運用できるように工夫していきたいと思  
います。

#### ・里山の生物の水槽展示

老若男女、やはり水槽展示は目  
を引くようで、多くの来場者の皆  
さんに里山の生物を見ていただけ  
ました。

会話の中で 「カムルチーって  
雷魚のことですよ」「今でも水  
路のエビっているの」「ザリガニ  
は昔嫌になるほどたくさん食べ  
た」「シナイモツゴのこと初めて  
知りました」…等、私にとっても  
気づきや学びになることが、沢  
山ありました。

その中でも特に「エビって昔よ  
く食べたよ。美味しいよね」と  
いう方が結構いらして、宮城の内  
陸部の暮らしにとって里山の水  
辺というのは、文化として息づ  
いていたのだなということを改  
めて実感しました。

地域の生物多様性保全は、地  
域社会の理解や参加が不可欠  
であるということを見ると、こ  
ういった機会に広く地域の皆  
さんに活動を知って・考えて  
いただくことはとても大切だ  
と思いますので、今後もこ  
ういった催しに積極的に参  
加していきたいです。



図4 保全活動により小川やため池でよみがえった魚たちは、  
子供にも、大人にも、お年寄りにも、大人気でした。

# 水辺の仲間たち —その27—

## 夏眠？避暑？する水生昆虫たち

長谷川政智(シナイモツゴ郷の会)

夏に活発に活動をする昆虫たちは、冬の間、卵、幼虫やサナギ又は成虫で冬を越します。このような事を冬眠とか冬越しなどと私たちは一般に言っています。例えばカブトムシは、夏に成虫が現れて産卵し孵化した幼虫はその状態で活動を止めて冬を越し、初夏にサナギへと変態し成虫となります。アメンボは、成虫で冬を越し春に産卵しその幼虫が成虫となり、その成虫はまた産卵しその幼虫が成虫になることを、2~4回繰り返し、冬を成虫で越します。夏に活発に活動する多くの昆虫の生態は、だいたいこのような1年になります。しかし中には、春に成虫になっても活発に活動をせず、暑い夏になっても活動をせず秋になりようやく活発に動き出し産卵するものや、初夏に幼虫のままどこかに隠れ秋や晩秋になってからサナギになり成虫となって産卵するものもいます。シナイモツゴ郷の会でザリガニ駆除をして保全活動を行っているため池にもこのように夏眠や避暑？をしている水生昆虫が何種類かいます。

その1種は、ミヤケミズムシです。ミヤケミズムシは、6月に成虫となりますが、その姿は秋まであまり見かけなくなります。産卵前の秋に再び姿を見せるようになり交尾し産卵します。次にサハリントビケラです。5月ごろに成虫となりその後晩秋10・11月ころ産卵で姿が見られるようになります。3種目はエグリトビケラです。エグリトビケラも同じく5月ごろ成虫となりますがその姿は秋の9月以降の産卵で見かけるようになります。サハリントビケラやエグリトビケラは高地など気温が低い場所では夏のライトトラップで採集されることもあるようですが、当地の保全ため池では夏には採集できませんでした。

4種目はトビイロトビケラ(ウルマートビイロトビケラかもしれません。)です。この種は、当地の保全ため池ではめったに見られませんが、大崎市内の他のため池では比較的多く見られます。トビイロトビケラは、春の間、岸際の葦などが生えているところで幼虫が見られますが、その後幼虫の姿は見えなくなります。岸際の葦の根元などに隠れ夏眠し、秋にサナギから成虫になります。成虫は、秋に産卵し春には幼虫が見られるようになります。5種目は、ホタルトビケラです。ホタルトビケラは、6月ごろに幼虫が水から出てきて陸上で夏を夏眠して過ごします。晩秋から初冬にサナギから成虫となり、その後産卵します。詳しくは、野崎隆夫氏のホームページ(トビケラ専科)をご覧ください。

これまでこのように保全ため池では5種類もの夏眠・避暑？する水生昆虫を見ることができます。特にミヤケミズムシ、サハリントビケラやエグリトビケラは、夏の間どこでどのように過ごしているのか詳しく分っていません。この問題に誰かチャレンジしてみませんか？

近年夏の気温が高くなるが多くなっています。夏眠する水生昆虫は冷涼な気候に適応するため夏の時期を夏眠という形で乗り切っています。しかし、これまで経験したことのないような夏の気温ではどのようにしていくのでしょうか？2023年の秋には、これまで大量に生息していたミヤケミズムシの姿があまり見られませんでした。夏の異常気温の影響でしょうか？

皆さんも四季折々でさまざまな生物や植物、昆虫を観察できるこの活動に参加してみてもいかがでしょうか。



5月に撮影したエグリトビケラの成虫



11月に撮影したサハリントビケラの成虫



ホタルトビケラ (野崎氏10月撮影)



トビイロトビケラ (野崎氏11月撮影)

会員の情報共有のための配信メール(1~2回/月)です。

受信ご希望の方はご連絡下さい。

皆様

夜半は寒さを感じるほど気温が低下し秋の深まりを感じていますが、お変わりありませんでしょうか？

●10/8(日)のアメリカザリガニ試食会に参加された皆様、ご苦労様でした。

外部から昨年の2倍近くの50人以上の方が参加し大盛況となりました。

特に、仙台、塩釜、東松島、石巻の飲食店の関係者が参加、試食しました。

塩水飼育と淡水飼育の試食では77%の方が塩水飼育が美味しかったと回答しました。その他の料理も、概ね高い評価でしたが、やはり、ビスクスープが最高の評価でした。

飲食店プロの批評を聞くに際し、少し緊張しましたが、臭みがない等、高い評価が得られ、安心しました。

供給の要望もあり、とても心強かったです。試食会の様子は東北放送と宮城TVのニュースで放映され、多くの方が視聴しています。現在、yahooニュースで全国配信中、宮城TVのURLでも視聴できます。

これまで有効活用の問題点として、アクセスしやすい場所で利用しやすい大型個体が駆除の対象になりやすいことが指摘されてきました。

当会では簡易な連続捕獲装置の導入により、徒歩で捕獲困難な水域でも小型ボートで捕獲を可能にし、小型個体の捕獲技術開発・捕獲実践とビスクスープや唐揚げなど小型個体の活用にも積極的に取り組んでいます。

現在、当地のため池ではアメリカザリガニ防除により多くの生き物が復元しつつあり、これを継続し拡大するための手段の一つとして、有効活用が重要と考えています。

●添付ファイルは水辺の自然再生共同シンポジウムの要綱・次第です。

今回は大崎市市役所会議室で11/25(土)に開催します。

講師として魚類の保全に尽力されてきた細谷名誉教授(近畿大)と森教授(岐阜協立大)のお二人に登壇いただきます。

さらに、今年度からアメリカザリガニの本格的な防除に乗り出した農水省の担当官と積極的に現場で防除の研究をされている中田教



授にもご講演いただけることになりました。

他にも実際に現場で活躍されている多くの方々にご講演いただきます。

ポスターセッションの自由課題に申し込まれる方は、10月末日までお願いいたします。

翌日にはシンポ参加者対象の里山ため池の現地研修会も企画しております。

多くの方のご参加をお待ちしております。

シナイはアイヌ語で大きな川(沢)を意味します。

小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。